

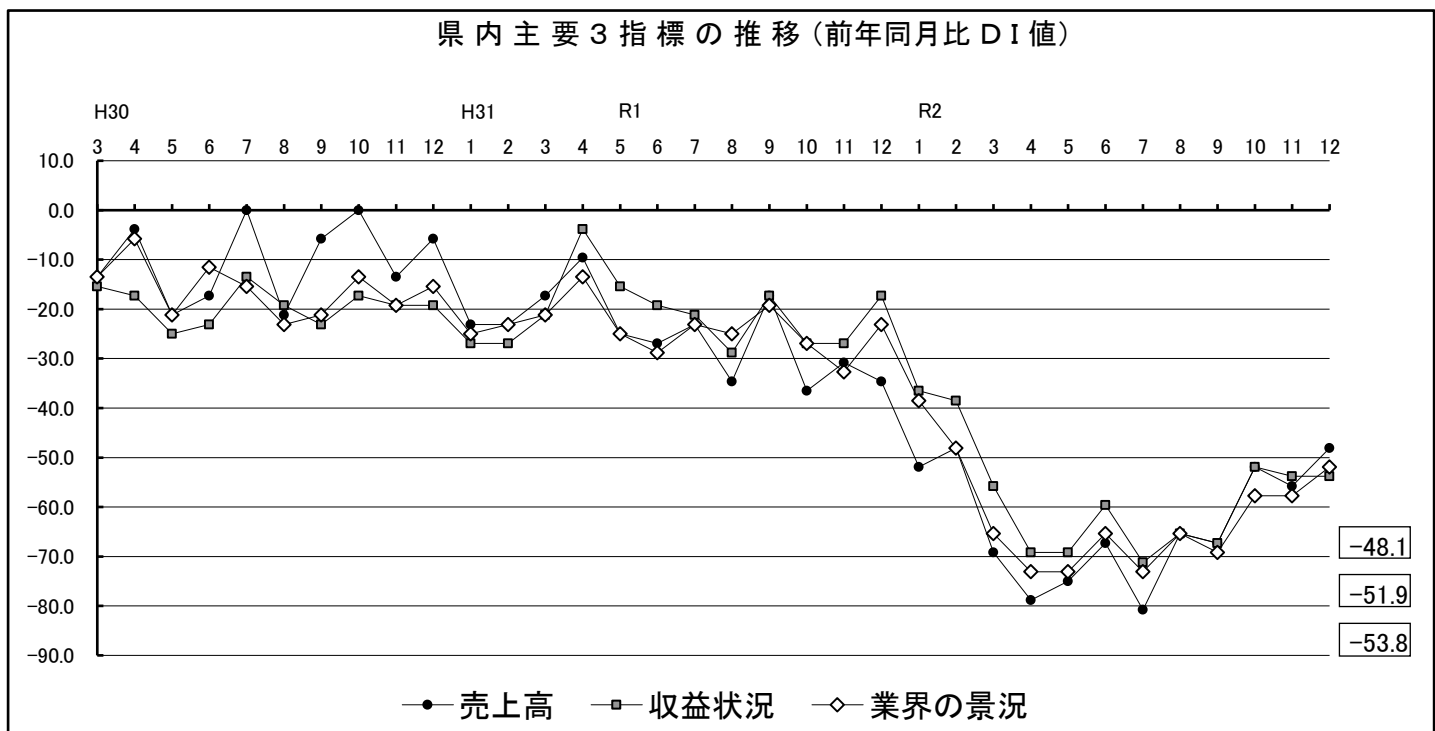
中小企業団体情報連絡員報告結果(令和2年12月分)

栃木県中小企業団体中央会

この報告結果は、栃木県中央会において設置している中小企業団体情報連絡員(中小企業組合(協同組合、商工組合等)の役職員52名に委嘱)による、所属組合の組合員企業の全体的な景況です。

- 主要3指標は「売上高」「業界の景況」が上昇、「収益状況」は同値となった。
- 「印刷」は主要3指標が依然-100ポイント。非製造業は特に「サービス業」で数値の下降が目立った。
- 長期化する業況の悪化に加え、第3波の影響もあり、先行き不透明感が強まっている。

県内主要3指標の推移(前年同月比DI値)



主要3項目	県内		全国	
	DI値	前月比	DI値	前月比
売上高	-48.1	7.7	-51.0	-1.9
収益状況	-53.8	0.0	-51.1	-1.4
業界の景況	-51.9	5.8	-56.4	-2.0

売上高

当月の県内売上高DI値は、前月より7.7ポイント上昇し、-48.1ポイントとなった。全国においては、前月より1.9ポイント下降し、-51.0ポイントとなった。

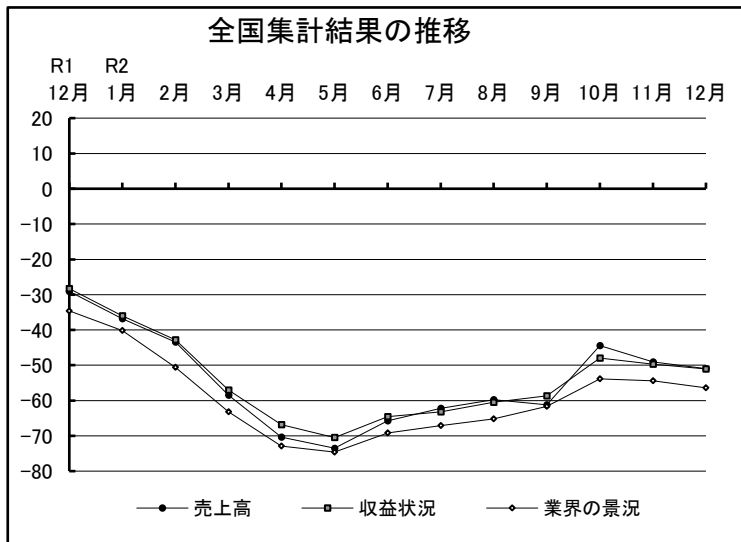
収益状況

当月の県内収益状況DI値は、前月と同値で、-53.8ポイントとなった。全国においては、前月より1.4ポイント下降し、-51.1ポイントとなった。

業界の景況

当月の県内業界の景況DI値は、前月より5.8ポイント上昇し、-51.9ポイントとなった。全国においては、前月より2.0ポイント下降し、-56.4ポイントとなった。

全国集計結果の推移



-概況-

12月の前年同月比DI値は、前月と比べ9指標中4指標が上昇し、4指標が同値、1指標が下降した。主要3指標は「売上高」が7.7ポイント上昇、「収益状況」が前月同値、「業界の景況」が5.8ポイント上昇となった。最初の緊急事態宣言以降の6月から、主要3指標においては各月ごとに上昇と下降を繰り返しており、今なお昨年の数値までは回復していない。

業種別・指標別にみると、図表1のとおり、「印刷」は主要3指標において前月に続き-100ポイントとなった。「繊維・同製品」は「売上高」「収益状況」が、「木材・木製品」は「業界の景況」が-100ポイントを示し、「鉄鋼・金属」は「収益状況」「業界の景況」は前月と変わらないものの、「売上高」が大きく下降した。非製造業では、-100ポイントを示す指標はほとんど見られないものの、前月から主要3指標全てが下降しており、特に「サービス業」においては「販売価格」以外全ての指標が下降した。

一般的には昨年4、5月を底に緩やかな回復傾向を示してきたものの、第3波とも言われる昨年末からの感染拡大、1月からの緊急事態宣言の再発令により、回復とは程遠い状況にある。一部の業種では回復の兆しや年末年始の需要の増加がみられたが、売上高の減少や業績の悪化などの意見が多く聞かれ、長期化する新型コロナウイルスの影響により倒産・廃業を余儀なくされる企業も出てきている。特にG o T o トラベルの中止や年末年始での感染者拡大により、今後の先行きに対する不安がなお一層強まっている。

図表1 【業種別・指標別DI値一覧表】

	売上	在庫	価格	条件	収益	資金	設備	雇用	景況
食料品製造	0.0	50.0	0.0	-25.0	-50.0	-25.0	0.0	0.0	0.0
繊維・同製品	-100.0	-75.0	-25.0	-50.0	-100.0	-75.0	-75.0	-50.0	-75.0
木材・木製品	-25.0	-75.0	-25.0	0.0	-50.0	0.0	-50.0	-50.0	-100.0
印刷	-100.0	-100.0	-100.0	0.0	-100.0	0.0	-100.0	0.0	-100.0
窯業・土石	0.0	-50.0	25.0	-25.0	0.0	-25.0	0.0	-25.0	0.0
鉄鋼・金属	-75.0	-50.0	0.0	0.0	-50.0	-25.0	-50.0	-25.0	-50.0
一般機器	-25.0	25.0	0.0	0.0	-25.0	0.0	0.0	0.0	-25.0
製造業	-40.0	-32.0	-8.0	-16.0	-48.0	-24.0	-32.0	-24.0	-44.0
卸売業	-66.7	-33.3	-33.3	0.0	-66.7	0.0		0.0	-66.7
小売業	-71.4	0.0	0.0	-42.9	-57.1	-28.6		14.3	-42.9
サービス業	-66.7		-16.7	-50.0	-83.3	-33.3		-16.7	-83.3
建設業	-20.0		0.0	0.0	-20.0	0.0		0.0	-20.0
運輸業	-50.0		0.0	0.0	-75.0	-75.0		0.0	-100.0
その他	-50.0		0.0	0.0	-50.0	-50.0		0.0	-50.0
非製造業	-55.6	-10.0	-7.4	-22.2	-59.3	-29.6		0.0	-59.3
全体	-48.1	-25.7	-7.7	-19.2	-53.8	-26.9	-32.0	-11.5	-51.9

図表2 【指標別DI値の推移】

	元年 12月	2年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	前月比
売上高	-34.6	-51.9	-48.1	-69.2	-78.8	-75.0	-67.3	-80.8	-65.4	-67.3	-51.9	-55.8	-48.1	7.7
在庫数量	-8.6	-5.7	-14.3	-5.7	-22.9	-5.7	-22.9	-17.1	-17.1	-20.0	-22.9	-22.9	-25.7	-2.8
販売価格	3.8	-3.8	-3.8	-11.5	-7.7	-15.4	-13.5	-7.7	-7.7	-5.8	-7.7	-11.5	-7.7	3.8
取引条件	-9.6	-11.5	-11.5	-15.4	-23.1	-26.9	-19.2	-15.4	-21.2	-23.1	-21.2	-19.2	-19.2	0.0
収益状況	-17.3	-36.5	-38.5	-55.8	-69.2	-69.2	-59.6	-71.2	-65.4	-67.3	-51.9	-53.8	-53.8	0.0
資金繰り	-13.5	-19.2	-17.3	-38.5	-53.8	-55.8	-51.9	-51.9	-48.1	-42.3	-28.8	-26.9	-26.9	0.0
設備操業度	-12.0	-24.0	-24.0	-28.0	-64.0	-72.0	-56.0	-68.0	-56.0	-52.0	-40.0	-48.0	-32.0	16.0
雇用人員	-5.8	-5.8	-1.9	-3.8	-11.5	-11.5	-19.2	-15.4	-9.6	-15.4	-9.6	-11.5	-11.5	0.0
業界の景況	-23.1	-38.5	-48.1	-65.4	-73.1	-73.1	-65.4	-73.1	-65.4	-69.2	-57.7	-57.7	-51.9	5.8

特記事項

情報連絡員報告（令和2年12月分）

所属組合	特記事項
和洋菓子製造業	実際業界の中には、業況が良い店悪い店があり、全体的には決して良い状況ではない。業界的には、家庭での消費が増えて、クリスマスの需要は良いようである。
あん類製造業	外食に出ない人が増えたようで、家庭内消費分の需要が増加した。
酒類製造業	コロナ禍での業界の状況は、相変わらず悪化の一途をたどっている。新年にはなったが、先の見えない不安な日々を送っている。企業をいつまで維持できるのか？今年は踏ん張りどころの一年になりそうだ。
縫製業	縫製品の依頼は50%以下になり、非常に厳しい状況である。1月～3月までは、防護服の再依頼が各会社から出ているが、短期間のため先は見通せない。
染色整理業	前年同月と比較すると、売上・収益に関する分野では回復は望めず、あいかわらず厳しい状況下であり、年明後も見通しは暗い。
網・網・レース・繊維粗製品製造業	新型コロナウイルス第3波の影響もあって業界も元気がない。春物の現物注文は少しずつ出ているが、年末までの感染状況の推移を鑑み、数量変更もあった。新型コロナウイルス関連倒産件数も繊維関係は多く、非常に厳しい状況を実感する。
一般製材業	当該月においては前月と変わらず景況も推移していたが、今般新型コロナウイルスの影響により見通しが読めない状況にある。
家具・建具製造業	例年12～3月以降は繁忙期となるが、受注低下により今年は落ち着いている。一部に回復の兆しも見られるが、今後については依然不透明な状況にある。
建具製造業	長引くコロナ禍の影響は避けがたく、年末に向け一部操業が増加した組合員もあるようだが、先行きは不透明なままである。
印刷業	コロナ禍による受注の減少が続いている。特に商業イベント等が軒並み中止になったことで商業印刷の失速が際立っている。今は組合として企業として出来ることを考え実行していくことが必要かと思われる。
石灰製造業	鉄鋼向けは、出荷量が鈍いが昨年並みであった。肥料関係は、新型コロナウイルスの影響で、家庭菜園等の需要が広まり、小袋商品の出荷が増加した。建材関係は、まずまずの出荷となった。全体では、昨年出荷数量と比較するとほぼ昨年並みの状況であった。
金属製品製造業	自動車部品が若干落ち込んでいる。
金属製品製造業	自動車部品関連・機械設備関連・プレス金型関連いずれも新型コロナウイルスの影響を受けており、売上低下、人件費増加、人手不足の状況が続き、業況が低下した。
一般機械器具製造業	自動車関連については、回復基調へ移りつつある中、年末の国内企業の工場火災の影響により半導体の調達が懸念される。
一般機械器具製造業	今月も売上高等の減少により収益状況悪化が継続中である。今月も先月と同様に、組合員企業にも格差はあるものの、新型コロナウイルスの長期にわたる影響に少しではあるが慣れてきたように感じる。各企業の経営努力も感じ取れ、一時的に回復の兆しがみられる組合員企業も見受けられる。今後の動向に注視しつつ国家の政策に期待を持ち、各組合員企業の適切な対応を見守りたい。
一般機械器具製造業	10月以降、売上高の減少幅が縮小し収益の改善を期待していたが、首都圏を中心に緊急事態宣言が再発出されることから、メーカーからの受注減少が非常に懸念される。県内においても感染者数が急増しているため、勤務体制の見直しを検討中である。

一般機械器具製造業	中国景気の上昇の影響と思われるが、自動車・建機・家電などが持ち直しの傾向があり全体的に上向き加減になってきたが、ここで11月に発生した国内企業の工場火災の影響が徐々に影を落としつつあり、心配するところである。技能実習生受入も再開してきたところだが、新型コロナウイルスの再拡大でまた休止に追い込まれそうな状況になって来た。
各種商品卸売業	引き続き新型コロナウイルスの影響を受けており、全体として売上高減少、業況悪化と厳しい状況は続いている。会館会議室等の利用状況は新型コロナウイルス第3波の影響によりキャンセル等が増えてきており1月以降の利用減少が懸念される。
食肉小売業	GoToトラベル中止の為、現在30%がキャンセルになっている。忘年会・新年会は、ほとんどが中止。家食が多くなりスーパーマーケットの食品の売上が伸びている為、牛豚鶏肉の相場が高く、利益が得られない。
各種商品小売業	このような厳しい年末は、初めての経験である。特にクリスマス商戦は、大手ネットショッピングに流れ、全くだめであった。12月25日過ぎは、人出もぐっと少なくなり寂しいものであった。物販・飲食共に前年比20%~35%の売り上げ減であった。
各種商品小売業	全体としての不況は相変わらずだが、特に主力のアパレル系テナントの不振が突出している。その穴は簡単には埋まらないが、この状況下にも関わらず新店舗がオープンしてくれたことは非常に大きな救いとなった。しかし、大変厳しい状況は続いている。
花・植木小売業	暮れの風物詩である松、千両の取引は、産地の高齢化や人手不足などにより年々減少している。歳暮需要のシンビ鉢やシクラメン鉢も近年減少傾向にある。一方、お正月家庭用の切花は天候にも恵まれ賑わいをみせたが、思ったより売上が伸びなかったとの声が多かった。
理容業	新型コロナウイルス感染症の影響により、客足は減少している。高齢者の組合員は、廃業を余儀なくされている方も出てきている。組合で対応出来ることを早急に考えて行きたい。
自動車整備業	自動車車体板金塗装整備における売上高の減少が大きい。
旅館・ホテル	新型コロナウイルス感染拡大により、宿泊においては11月は前年対比70%まで戻ってきたが、12月は60%まで下がった。アベレージも¥1,000円以上下がったままで、GoToトラベルの中止もあり年末年始の需要がなくなった。宴会は80%ダウン。飲食店は35%ダウン。11月半ばより感染拡大しており、12月の忘年会需要が消滅した。1月の新年会も消滅である。
ビルメンテナンス業	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、宅配関連の物流業務の事業高が増える一方で、臨時的な対応のため、外注費も増加し、収益性は低下している。
給食センター	売上高は、新型コロナウイルスの影響で、依然として昨年度より減少であるが、新規事業を開始したため、前年同月と同額位に回復した。雇用の確保、事業の継続するためのキャッシュフローは、国・県の制度融資でなんとかなっているが、新型コロナウイルスが終息せず、このまま続けば収益・資金もまだまだ危うい。
内装工事業	対前年同月比において地域内の各企業の業績は悪化しており、来年3月までに回復する要因が見受けられない。
貨物軽自動車運送業	上旬は低調な動きであったが、中旬から例年通りの年末らしい動きになり配車が困難になる日も多かった。下旬になると、大手運送会社の働き方改革でドライバーを休ませる為、12月31日まで忙しい状況であった。新型コロナウイルス感染症の状況で組合員の売上げが大きく影響を受けるので今後も注視しながら、厳しい運営状況ではあるが、頑張っていく。
一般乗用旅客自動車運送業	年末は通年として、繁盛期となるが令和2年12月は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、売上が前年比4割弱となった。12月25日出庫分より平均で約10.8%の値上げを行った。更なるサービス向上に努め、増収に繋げたい。
大谷石採石業	大口の注文が入らない状況は変わらない。